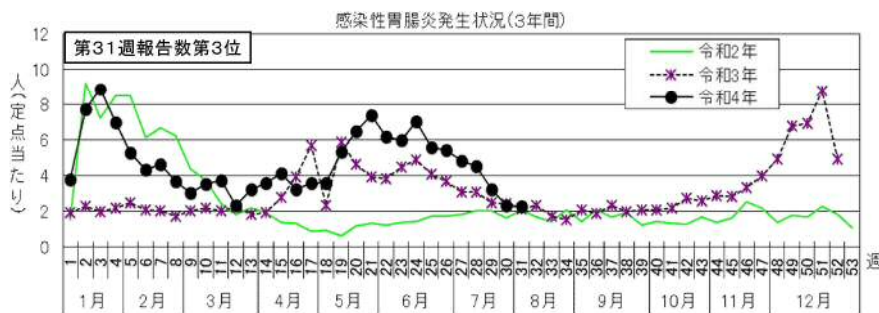
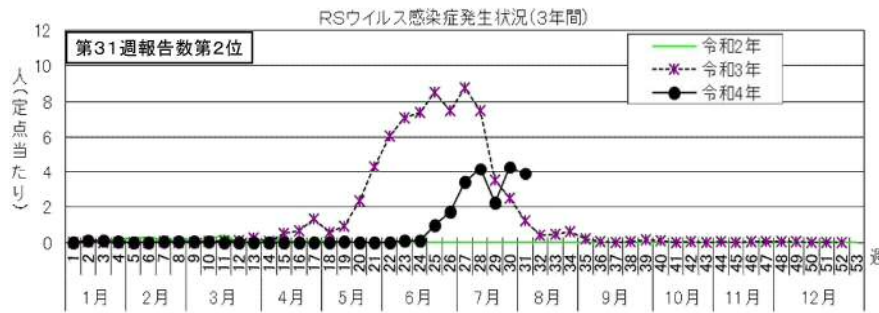
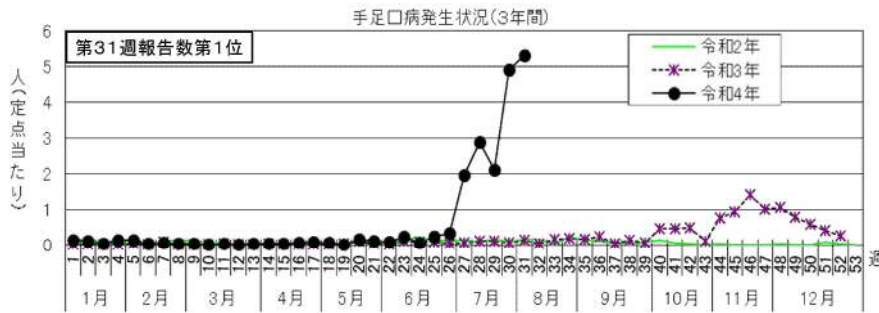


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和4年8月1日（月）～令和4年8月7日（日）〔令和4年第31週〕の感染症発生状況

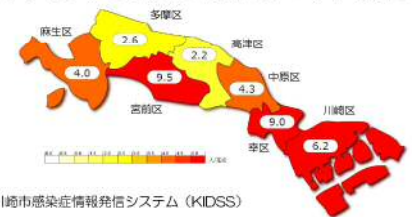
第31週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）手足口病 2）RSウイルス感染症 3）感染性胃腸炎でした。手足口病の定点当たり患者報告数は5.32人と前週（4.92人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は3.94人と前週（4.27人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.26人と前週（2.32人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



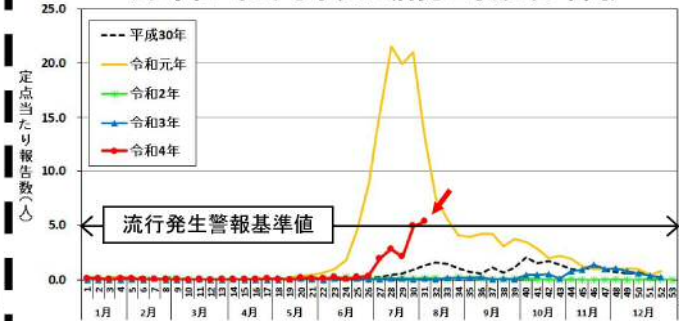
手足口病の流行発生警報が発令されました！

川崎市における令和4年第31週（8月1日～7日）の手足口病の患者報告数が定点当たり5.32人となり、流行発生警報基準値（定点当たり5.00人）を超えました。手足口病は、3～5日の潜伏期間を経て、手のひらや足の裏、口腔内などに水疱性の発しんが現れる疾患です。一般的には4歳以下の小児の感染が主ですが、今年は市内で報告数が増加し始めた第29週（7月18日～24日）以降、年長児の報告もみられています。

手足口病の感染経路は、飛沫感染、接触感染、糞口感染であるため、予防には、十分な手洗い、おむつの適切な処理、川崎市における手足口病分布マップ(第31週) タオルの共用は避けるなどの対策が有効です。小児が集団で過ごす保育園等では、予防対策の徹底が重要です。



川崎市における手足口病発生状況(5年間)



手足口病の予防対策

流水と石けんで十分に手を洗う

タオルの共用は避ける

おむつ交換の際には排泄物を適切に処理する

